

白菜の虫 山鳩保育園（京都府八幡市）

< 2歳児 >

初めて白菜の種まきをし、育てる。連日楽しみに水をあげ、よく見ている。

《31日目》 白菜に虫の糞がついている。

保 「この黒いの何と思う？」

⊕ 「白菜の種や！こんくらいちっちゃかったもん！！」（白菜の種の形を覚えていた）

虫のウンチということを教えると、

「こんなちっちゃいのにウンチなん？なんで？なんで？」と信じられないようだった。



《35日目》 白菜がたくさん虫に食べられていたので、虫を取りに行く。

⊕ 「あっ、また白菜にうんちいっぱいしてるー！！」

保 「食べる白菜なくなっちゃうなあ。」

⊕ 「ほんまやあ」すると、白菜（虫）に向かって、「ごめんねはー？」

保 「白菜にうんちがしてあるってことは、その白菜には虫が住んでいますよってことなんだって。どこに虫がいるのか探してみよう！！」

保⊕ 「・・・」「いないねえ」「おーい虫さん！！」

保 「あっ、いたいた！！」

⊕ 「えっ、どこ？見えへん！！」

保 割りばしで虫をつまんで見せる。

⊕ 「わあ。葉っぱと同じ緑やからわからへんかったー」

白菜の虫を取り除く。

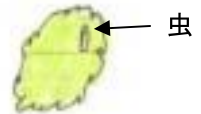
保 「白菜たくさん食べたいからみんなに見つからないように葉っぱと同じ色になって隠れてるんかなあ？」

⊕ 「そうやできっと。虫さん隠れんぼ上手やなあ」

そして青虫に一言「もう白菜にうんちしないでね。」

この後、今後虫が寄ってこないよう葉をまいた。

☆ 虫と葉っぱが本当に同じ色をしているので、パッと見ただけでは見つけられない。探すのがすごく難しかった。



《38日目》 先日葉をまいたからか、うんちがなくなっていた。

⊕ 「あっ、うんちなくなってるー！！」

保 「ほんとやね。うんちどこ行ったんやろう？」

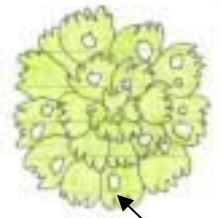
⊕ 「虫が自分で食べはったんちがう？きっとそうやわあ。」

「そうやそうやー！！」と、子ども達なりに納得しているようだった。

☆ 白菜の葉っぱがまた更に増えていたので、一番育て

ているものを数えてみる。子どもたちが数えられるのは5枚ほどだった。

28枚もの葉っぱになっていたのととても驚いた。



ところどころ
虫に食べられている。

《66日目》 再び、葉っぱに虫の糞がついている。

保 虫の糞を指さし、「これ何やった？」

⊕ 「虫のウンチー！！またしてはるー！！」

保 「何で虫さん来るんかなあ？」

⊕ 「白菜おいしいからかなあ？」

「食べる分なくなるから虫さん来んってほしかったあ」

と、真剣に悲しむ子もいた。



みどころ

大切に育ててきた白菜に、「ウンチがある」「虫がいる」「虫は隠れてる」と驚きの発見をします。「汚い・嫌だ」という姿が見られないかわりの様子から、自然にあるものを受け止める感性や好奇心により、子どもたちは見たり感じたりしたものを素直に表現できることが分かります。それは、安心して過ごせる環境や素直に表現する信頼関係を大切にして見守ってくれる保育者が一緒に同じように感じ、知りたいことも一緒に教えてくれるからです。繰り返し経験することで「白菜がおいしいから虫が来るのかな」と想像することもできます。